NPO法人　地球環境共生ネットワーク発行

U-net通信

2023年8月
Vol.128

あとから来る者のために　坂村　真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦労をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくのだ

発行：NPO法人地球環境共生ネットワーク　〒901-2311　沖縄県中頭郡北中城村字喜舎1478番地　TEL:098-923-2600　FAX:098-923-2611　　編集人:U-net　発行人:比嘉照夫

令和５年　第３回　ＥＭ技術セミナー

U-net 会員対象の第３回 EM 技術セミナーが７月７日にオンラインで開催されました。
今回、最初にキクラゲ栽培に EM 技術を導入され成果を出されている沖縄県の仲眞様に発表して頂きました。次に、日本各地で U-net ユニバーサルビレッジモデルプロジェクトに取り組んでおられるプロジェクト担当者の方々に進捗状況をご報告していただきましたので発表内容をご紹介します。

「EM 菌ときくらげ栽培の驚くべき親和性」～菌で菌を制する農業の形～について

旭イノベーション株式会社　代表取締役　仲眞秀哉

私は大学では野外教育を専攻し、卒業後はさらに専門性を深めたいとの思いから、カナダの Yukon カレッジに留学しました。様々な経験を経た後、Westcoast International に入社し、カナダ留学センターにて日本とカナダの青少年の育成に努めました。日本帰国後は、地元の沖縄県にて学校の教員として学校教育に携わっていましたが、新しい教育事業を興したいとの思いから教員を辞め、IT 関連のウェブマーケティング会社を起業しました。さらに、子供たちを自然に触れさせたいと考え、二次事業として農業ビジネスを開始しました。



沖縄では農地を借りるのがとても難しく、ようやく探し当てた場所が偶然にも EM を活用しているサンシャインファームの隣地でした。そこは、30 年以上手入れされていない荒廃農地で、ゴミが大量に不法投棄されていたことから、一年かけて綺麗に掃除をし、農業ハウスの修繕を行いました。この修繕した農業ハウスでキクラゲの栽培をしています。

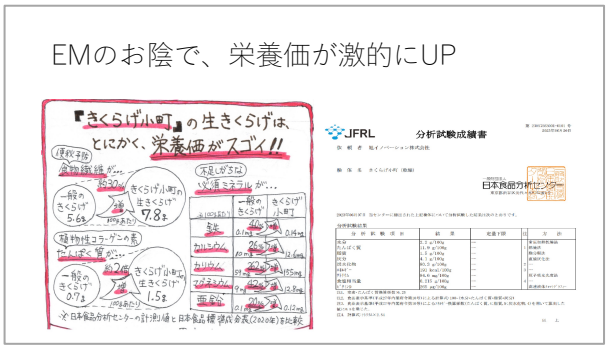


キクラゲは高温多湿を好みますが、これは青カビが好む環境でもあり、青カビが発生するとキクラゲの収量に影響することから生産者にとって大きな問題となっています。通常、菌床が青カビに感染するとキクラゲは生えてこないのですが、EM を菌床に散布すると青カビに侵されても、その上からキクラゲの白い菌糸が生育し、キクラゲが丈夫に育つことが分かりました。EM 導入前は、菌床に 10 日目頃に青カビが発生し廃棄する菌床も多かったのですが、いろいろな資材や防除方法を試す中で、EM が一番青カビの発生を抑えました。現在は、3ヶ月までは菌床に全く青カビの発生が見られなくなりました。また、EM を散布することにより、ウイルス性の病気や害虫（キノコバエ）の発生が低減しました。

EM により栽培がし易くなると共に、キクラゲの栄養価も向上しました。日本食品分析センターでの分析によると、食物繊維、タンパク質、鉄、カルシウム、カリウム、マグネシウム、亜鉛などが増加しました。特に、植物性コラーゲンの素となるタンパク質やカリウムが 2 倍以上に増加していました。賞味期限も以前と比べて2～3 倍に伸びているので、非常に助かっています。キクラゲの効能として、食物繊維による便秘改善、ビタミン D による骨・筋肉の強化、免疫力 UP、生活習慣病や認知症予防などがあげられます。ビタミン D は日本人の98%が不足しているといわれいますが、EM 栽培した自社のキクラゲには、ビタミン D が通常の 28 倍も含まれていることが判明していることから、差別化にも繋がっています。

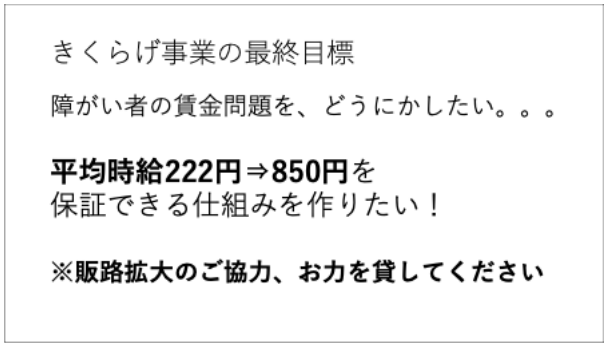
キクラゲ栽培を始めたきっかけは、3 歳になる息子がストレスから便秘になり、いろいろと対策を模索する中で、キクラゲを料理に入れて試したところ便秘が解消したことに因ります。しかし、キクラゲそのものは子供が嫌がって食べないので、試行錯誤した後にパウダー化してゼリーやクッキーの材料として使うことで食べてもらえるようになりました。また、妻や友人たちにも試してもらったところ、便秘の解消だけでなく、夜の寝つきの改善、肌がツヤツヤになるなど美容効果も高いことが分かりました。このようなことから、『きくらげ小町ブランド』として、高品質の生キクラゲだけでなく、キクラゲの無添加パウダー、シークワーサー味で子供にも食べやすくしたゼリー、グルテンフリーのクッキー等の商品化に至りました。

『きくらげ小町』は、NHK や新聞、地元誌にも紹介されるようになりました。生キクラゲは、割烹や和食料理店に卸しており、ゼリーやクッキーは薬局や県内のホテルにも並び人気商品となっています。









これまで、キクラゲの収穫体験会では延べ 700 人以上の方達が参加をされました。また、子供向けの収穫体験や自然体験ができる体験型コミュニティーエリアづくりを考えており、サンシャインファームさんとも協力しながら、来年に向けて子供たちが自然に触れ合うイベントを計画しています。

今後は収穫作業などを福祉事業所に委託するなど、農福連携に取組むことを考えていますが、キクラゲ事業の最終目標として、障害者の賃金を上げ、やりがいを感じる自立できる仕組みを作りたいと思っています。そのためには EM 栽培したキクラゲの良さを知って頂き、販路を拡大する必要があることから、皆様のお力をお貸し頂ければ幸いです。

@KITANAKA_FARM

＊商品誕生エピソードは、きくらげ小町のサイトに漫画・写真入りで紹介していますのでご覧ください。
https://kikurage-komachi.com

「講 評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

“量子力学”のことを皆さんが少しずつ理解してきたので、「シンクロニシティ」＝「量子もつれ（比嘉セオリーにも出ています）」というポイントから解説します。“量子もつれ”は、お互いに意識をし、はじめてその方向に行くと、最後は一つの核に集約して行きます。これをシンクロニシティと言っています。仲眞さんのスタートが、ご自身が子どもの頃から EM を知っているということが核となっています。

また、経験の多様さ、しかも、すべてポジティブに受け止めています。これは量子もつれを理解する時の重要なポイントとなっています。しかし、ネガティブに受け取ってしまうと、すべて切れてしまいます。何かを実践する際に、とても大変なことがあっても、すべてポジティブに受け止め、色々とチャレンジして行くと、量子もつれのパワーが強くなり、その姿勢を維持していくと、量子コヒーレントが強くなります。その結果、 仲眞さんは最終的にはサンシャインファーム農場の横に来られ、いつでも EM の相談ができる状況になったのです。また、知恵が全部集まるようになってきたということは、これは起業をする点でとても重要なことです。この点から、シンクロニシティが増強されたと理解できます。

仲眞さんが子どもの頃から EM が良いというベース（理解）があり、今度はご自身のお子さんが便秘になって、そうしたら、今度は奥さんも天の声を感知する。このような経験を関係者と共有し、分けて与え、皆さんを健康にしながらハッピーを分けていった、いわゆる分福する訳で、このような取り組みを重ねることで更に波及しています。シンクロニシティの機能が、EM をベースに回ってきて、最終的には仲眞さんの事業がサンシャインファームの横で落ち着いたという流れからも確認できるように、要するに、起業するという時は、EM をベースに常にシンクロニシティを意識することが重要なのです。

キノコは菌類ですが、EM はバクテリアの複合なので別世界の話ではありますが、EM は抗酸化作用が強いため、青カビのような酸化作用の強いものは抑える働きがあります。この力は熱を加えても消えないので、菌床を作るとき EM をしっかりと入れ菌床を作り、その後に滅菌してキノコを植え付け、その後は栽培管理で霧状に EM を噴霧します。このような方法を実践すると、その後は収穫後の廃菌床に再び EM を加え、菌床の他の材料と一緒に混和することで、廃菌床が次作の菌床としてリサイクルで作成できるようになります。

シイタケや他のキノコ類でも EM 活用例があり、EM の抗酸化作用を上げて行くと、この発表であったような、ビタミン D が増加したような例が確認されます。例えば、EM 飼育の卵では普通の卵と比べ抗酸化物質が約 20 倍になります。普通に EM を使うだけで、5 倍くらい抗酸化物質が高まることが確認されています。他の農産物でも同様です。

この背景は、あらゆる酵素があらゆる効果を発揮するかもしれないが、その道筋ができていないなかで、量子コヒーレントが働き、量子力が高まると、仲眞さんのキクラゲのようにビタミン D が約 26 倍以上となった等の現象が現われてきます。要するに、量子力学の世界では当たり前ですが、従来の常識で言えば奇蹟であり、あり得ないとなりますが、仲眞さんの場合は起こる事象を全て素直に受け取ってきた結果、シンクロニシティが強化され、更に触発されて新たなアイデアや商品開発に繋がっています。

最後に、障がい者を含めハンディキャップを持っている方をどうハッピーにできるかということに対応できれば究極に進化します。EM 研究機構でも経験がありますので、両者で協力して、キノコ事業だけにとどまらずに、農業や他の業種を取り入れながら、仕事を通じて障害を持った方がどんどんと元気になり、仕事の能率がどんどんとアップするという事業を行って行ければ、高齢者の認知症や骨粗しょう症等、これからの社会問題を解決することができます。高齢者が元気で健康で動くことができれば、高齢者の経験や知恵は社会の有用な知的資源になります。

今回の発表の取組みに、EM 生活を加えることを多くの方が実践すれば、今後、心配される社会問題は起こらなくなります。その結果、医療費も減ると国の財源にも貢献することに繋がります。このような視点で取り組み、また、EM 研究機構とも協力することで、キクラゲ栽培に留まらず、新たな事業が発展して社会的善循環の波及効果が出て来るものと期待しています。

ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト進捗報告会

「水産加工廃棄物を活用した持続可能な“循環型地域農業”のモデルづくり」

U-net 理事　平野勝洋

本プロジェクトの目的は水産加工場から排出される廃棄物を再生可能資源として活用し、堆肥へリサイクルし、ゴミ排出量を削減することです。現在、水産加工廃棄物は廃棄処分されているため高額な処分費用が課題であり、焼却処分のための環境負荷も高いのが現状です。EM を活用し高品質な堆肥を作り「安全・快適・ローコスト・ハイクオリティーで持続可能な“循環型地域農業”を導入し普及していきます。

今年度は下記の目標の②と④を新しく更新しました。

①水産加工場から排出されるゴミ量を削減し、堆肥として利用すること（年 10 ㎥）。

②堆肥の製造および販売について学び、モデル化する為に資料をまとめること。

③最新 EM 技術を習得するための勉強会を毎月開催すること（外部講師年2回）。

④持続可能にするための活動資金確保の為の収入源を研究・技術開発することです。

目標①の堆肥製造については、堆肥製造は3年目となりましたので、とても効率的に行えるようになってきました。製造量も増えてきたためミニショベル（ユンボ）を導入しました。堆肥製造量増と共に、活性液供給量も増加しているため、5tタンクを増設しました。また、このタンクは日本橋川浄化プロジェクトで使用されていたタンクで、今は栗原で大活躍しています。



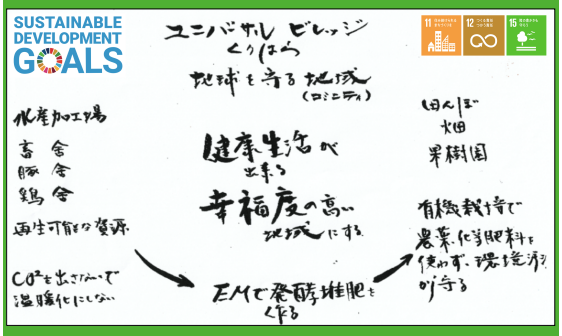
持続可能な仕組み作りについては、プロジェクト開始当初から堆肥製造を行なってきましたが、堆肥の製造や販売については、様々な行政手続きや法律があり、とても複雑な事が課題です。例えば、原料となる水産加工品残さや鶏糞の、回収や運搬も法律や規則があります。ですが、なかなか正確な情報がなかったり、経験によるところが多かったりして中々調べることが少なかったのですが、堆肥製造のモデルとなれるように、行政を含めた関係各所と打合せし、しっかりとした仕組みづくりをして、資料としてまとめ報告したいと考えています。

最新 EM 技術を学ぶ勉強会の実施や市民農園についての取り組みについては、3月の U-net EM 技術セミナーで講師を務められていた、EM 研究機構の吉川氏を招聘し、「ユニバーサルビレッジと最新 EM 技術」について勉強会を実施しました。沖縄県で建築中のユニバーサルビレッジの事や、植物の能力についての最新情報など、30名以上の参加者が集まり質疑も活発で、参加者から「沖縄へ視察に行こう！」と声が上がり昼食会も盛り上がり大成功の勉強会でした。

EM 農法・最新技術については、昨年からご訪問しご相談していた栗原市内にある、ブランド豚「志波姫ポーク」（しわひめスワイン様）で月2tの EM 活性液の使用が始まりました。水産加工場を皮切りに、どんどん EM の活用場所が増えてきました。

ユニバーサルビレッジくりはらの理念図（右）になります。健康生活が出来、幸福度の高い地域(地球を守る地域)を実現するため、今は廃棄されている再生可能資源から EM で発酵堆肥を作り、有機栽培に活用して行きます。

「ユニバーサルビレッジくりはら」の理念図



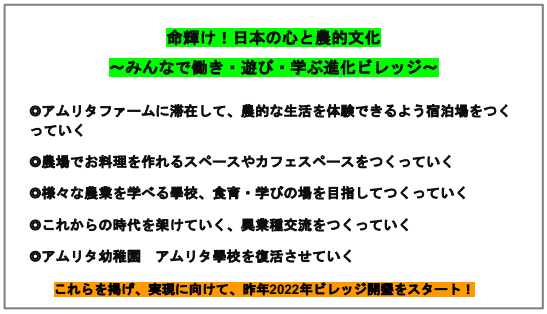
「循環型地域農業の善循環モデル」

「命輝け！日本の心と農的文化　～みんなで働き･遊び･学ぶ進化ビレッジ～」

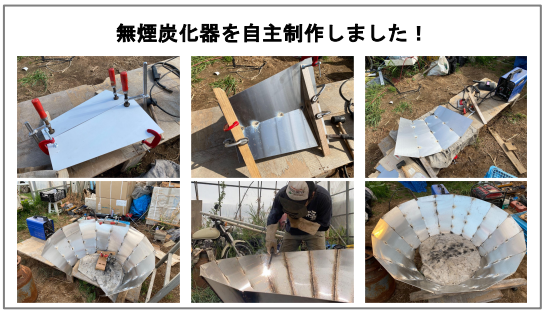
アムリタファーム　代表　齋藤則高、おかみ　齋藤麻恵

私たちアムリタファームは北海道ニセコ町で 2014 年から、「食と心は密接につながり影響する」と言う学びから、「皆様の心と身体の為に貢献したい」という思いで始めたトマトを中心に生産している農園です。

私たちは約 6 町歩という広さの土地を預からせていただいており、本プロジェクトはその敷地を使い 2022 年から皆さまのご協力のもとスタートしています。前回 11 月の発表後、北海道は冬になり、外の開墾作業等は全くできない状態となりましたので、納屋や越冬ビニールハウス等で出来ることにチャレンジしました。



まず、無煙炭化器を自主製作してみました。せっかくであればエネルギーが高く、氣が善いものを製作したいと思い、ネットで検索したところ 16 角形の図面があったので、その図面を基に材料を仕入れ、ステンレス表面を EM 処理し、EM･X GOLD をシュッシュしました。そうして溶接を少しずつ進めたのですが、その際「EM 讃詞」を唱えながら、本当に善いものになるように真心を込めて製作していきました。ようやく形が整ってきて出来上がったかな？と氣を感じてみると、とても気持ちの良いものに仕上がっていました。



次に EM カーを製作してみました。こちらはエンジンがちょっと調子の悪い軽ワゴン車を格安で譲っていただいて製作を始めました。まずエンジンを降ろして、バラバラにし、一つ一つのパーツに EM と EM･X GOLD をかけて磨き上げ、そして、EM 讃詞を唱えながら楽しみながら再び組み上げていきました。この車は購入した時は物凄く氣の悪い車で、車内もタバコのひどい臭いがしていましたが、最初に室内に大量の EM を散布し、その後、更に EM･X GOLD を散布。EM 讃詞を行うことで、臭いも消え、氣も良くなっていきました。組み上げていくにあたっては特に電気系と燃料系のラインに EM 処理の重ねを気を付けながら組み上げました。こちらはすでに完成していますので、ご興味のある方は試乗していただく事が出来ます。



春になり雪が解け始めると、開墾作業が再びスタートし、木の整理や、クマザサという根が物凄く強い笹の除去作業に取り掛かりました。そんな中、この U-net 通信で私たちの事を知って下さった道内在住のご家族の方がボランティアに駆け付けて下さり、一緒に開墾作業をする日もありました。

開墾作業で出た木を、冬に制作した無煙炭化器を使い、初めて EM 整流炭を作ってみました。子ども達を含め皆で木を集めて、火を付け、最後に EM 入りの水で火を消しましたが、これで合ってるのかな？と皆で試行錯誤しながら炭を焼きました。

開墾した場所の土を見ると、ものすごく良い土が出てきました。そこに建物を建てたり、駐車場にするには余りにももったいない土でしたので、急遽予定を変更して EM を体験できる農業ビニールハウスをつくる事にし、友人たちが駆け付けてくれて、急遽完成させました。こちらは EM グラビトン技術を用いたハウスになっており、現在はイチゴや野菜を栽培しています。イチゴのシーズンは終わってしまいますが、次はミニト

マトの収穫体験など、その場で出来たものを、その場で食べていただけるように工夫していますので是非遊びにいらして下さい。



この様にプロジェクトが進むと同時に、アムリタファームの農業も進歩しています。昨年 2022 年春に初めて私たちのプロジェクトを発表した際に、比嘉先生から次の 3 つのアドバイスをいただきました:①良質な EM 活性液を作ること、②結界をつくること、③EM 活性液をたくさん使うことです。これらの事を昨年に続き、本年も深めていきたいと思っています。

さらに、2022 年秋の進捗発表の際に、比嘉先生から①結界に EM・X GOLD を半年に 2 回シュッシュすること、というアドバイスがありました。これをきっかけにしょっちゅう気が付いた所をシュッシュするようになりました。やってみてより重ね効果が期待できると感じています。同時にその時におっしゃられたことが②EM 讃詞を良くしているから結果が出ているとおっしゃられたので、この EM 讃詞を強化して意識して、真心から唱えられるよう行っています。

次に 2023 年今年の強化とチャレンジするポイントです。アムリタファームでは農業ハウスが 6 棟あります。昨年はその中の 4 番と 6 番のハウス 2 棟に結界を設けて栽培を行いました。するとものすごく素晴らしい結果が出まして、(私はエネルギーに敏感なのですが)すぐにエネルギーの場が変わることが確認できました。ここで気付いたことがあります。4 番と 6 番ハウスは結界を設けていて、その間にある 5 番ハウスには結界を設けていなかったのですが、4 番と 6 番ハウスが共振しだして、この 5 番ハウスも物凄く良い氣に変えてしまったのです。この体験が凄く印象に残っていましたので、今年はその体験を踏まえて更に結界を設置するハウスを増やしてみようという事になりました。ただ増やすのではなく、変化を体験しながら増やしていく事を行っています。

それから、水・電気のラインと言うのを農業は凄く使いますので、さらに細かく結界を設置し重ね効果を大きくしていくことに取り組んでいます。チャレンジの部分は 3 つあります。

①プロジェクトの敷地内に新たなメインハウスを建築。

とても大きなハウスを寄付して下さった方がおり、そちらを建築していきます。大きなハウスですので、ここで EM の勉強会や、コミュニケーションをとる場として、またお休みいただける場になるようにしていきます。

②異業種コラボ。



音楽業界の方から、「音楽の力で一次産業を支えられないか、元氣に出来ないか」とお声かけいただきました。これは音楽を聴かせることによって規格外野菜にも付加価値を付けちゃんとした値段で販売できるルートを作っていきましょうという、フードロスなどの社会課題の解決に挑戦するプロジェクトです。この度、音楽評論家のピーター・バラカン氏が野菜に聴かせる為のプレイリストを作って下さり、それを EM 野菜ハウスで流すことになりました。ただ流すだけでは面白くないので、自分で作ったかんぴょうのスピーカーで流すことにしました。このスピーカーは中も外も EM で拭きあげ、中に EM 結界を置き、その上に整流シールを張ったスピーカーを設置、EM さん達にも共振していただきながら野菜に音を届けられるように工夫しました。こちらはすでに完成し、音楽を野菜に届けていますので、興味のある方は見にいらして下さい。

③EM ルーペにチャレンジ。

これは野本理事が取り組んでおられる波動測定器を使ってお野菜の状態を視覚化することで、元氣になる野菜を皆さんに提供しようというプロジェクトです。数年前から私たちも世に出回る野菜たちも波動を数値化して、良い内容のものを届けられたらいいねと話していました。それが現実化する時代が来て私たちも喜んでいました。野本理事に誘われましたが、すぐに参加表明できずにいました。それは以前から私たちも波動測定をしてきましたが、北海道で測定した時には良い数値が出ますが、東京に送って測定していただくと数値にずれが出て、結果がぶれることが起きていたからです。これでは良くないと思い、今までいろいろな事を試してきたことを野本理事にお話ししました。すると、野本理事が、「私が直観的に感じたことですが、」と意見を伝えて下さいました。それは海洋深層水の使用方法を改めた方が良いのではないかという事です。これはステップが上がるチャンスだと思い、海洋深層水を使って海水活性液を作るようにし、そのままでは使わないという使用方法に切り替えました。また同時に塩の強化もしてみたいと思い、高波動の塩の作り方を野本理事の YouTube 講座で学ばせていただき作るようになりました。この様にして EM ルーペに合格できるような波動数値の作物作りにもチャレンジしています。

ここからは少しお知らせをさせて頂きます。まず、先の U-net 通信でもご報告させていただきましたが、アムリタファームの「塩トマト」がオーガニックエコフェスタ 2023 「身体に美味しい農産物コンテスト」で最優秀賞を獲得いたしました。これは EM さんのお陰もあり取らせて頂いたものですので、皆さんに感謝申し上げます。有難うございました！そして、これを機に各種メディアで取り上げていただく機会が増えております。その都度、EM のお話をさせていただいており、掲載・報道されています。また、現在、某テレビ局からドキュメンタリーを撮りたいと申し入れがあり、一年密着でテレビカメラが追いかけてくれています。こちらも EM の話やその技術を撮っていただいていますので、来年の春以降の報道をお楽しみにして下さい。

今後の予定です。①私たちの農場でトマトのシーズンが始まります。7 月下旬頃から出荷ができる見込みですので、ご興味のある方は是非お問合せ下さい。すでにご予約頂いている方は今少しお待ちください。② 8 月ついに進化ビレッジのメインのハウス建築開始予定です。EM の技術を駆使しながら建築し、人と環境に良い集いの空間を造っていきますので、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。③8 月 6 日（日）アムリタファーム自主イベント「むすびの祭」を開催します。今回のテーマを「EM」にさせて頂き、EM で繋がった方々にご縁出店をお願いし、輪を広げていきます。ご都合の合う方は北海道内外問わずどうぞ遊びにいらして下さい。次回は 8 月 25 日（金）に開催いたします。

さて、今年 5 月に EM の国内外の代表の方が視察に来られました。初めてお顔を合わせたのになんだか初めてではない、懐かしい感じのする方たちばかりでした。EM を愛していて、EM が大好きな方たち囲まれて過ごすのは、私たちには初めてで光栄でした。色々な深い話が出るのがまるで学校のようで、「わー、そんなこともあるんだな！」と、沢山の気付きと学びがある会話と場のエネルギーが楽しくて仕方がありませんでした。スイスからいらしたローランドさんが、「君たちのことを U-net で知って、日本に来たのは君たちとこのファームに会いに来たんだ。」という事、「貴方達のトマトは国際基準でもハイクオリティなレベルにあるのですよ。」という事を伝えて頂き、大変嬉しく励みになりました。このことで、EM の重ね効果が重要な様に、EM を愛し、経験を積んだ方たちとの情報やエネルギーの交流もとっても重要だという事を経験させていただきました。この様な善良な方たちとの重ね効果がすごく重要だなと気付かせていただきました。

EMの重ね効果が重要なように
EMを愛し、経験を積んだ方たちとの
情報・エネルギー交流の大切さを経験
善良な人との重ね効果がとても重要

Amurita Farm
Niseko Hokkaido, Japan

https://www.amuritafarm.com

このように私たちは一人ひとりが今できることを輝きながら行い、そして、その事を発信できる場所を創っていきますので、今後もアムリタファームのことを応援してください。今日は本当にありがとうございました。

「未来子育て環境を創造するグラビトン農法と、遊び・食育・共育の親子青空保育きりんガーデン」

一般社団法人 MOMO CO-CREATION 代表 土居桃子

◎はじめに



「親子青空保育園は実家より居心地の良い場所です。自分で決めたことが自由にできて、子どもたちが帰りたくないくらい気に入っています。」子育てママの嬉しい感想です。U-net 様より助成して頂き、ご縁のある親と子どもたちのコミュニティーが歩み始め 2 年目を迎えました。

決して順風満帆ではなく昨年末は、拠点であるユニバーサルビレッジ ito（借家）の家賃や運営費の問題で、一度は居場所を手放してしまおうかと考えていました。しかし、比嘉先生にも助言をいただきクラウドファンディングを始めました。目標額には届いていませんが、たくさんの方に応援していただいていることがわかり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そこでなんとかしようと存続の道を探している時、私たちの問題である運営費や人件費が賄えない状態を全て打破する、すべて乗り越えられる制度が、高知市の補助事業にあることを知りました。介護予防を目的とした基準緩和型 B 事業です。世代間交流のための居場所「地域サロン」の取り組みを週3回、4時間以上開設するのです。私たちはその事業に手を挙げることにしました。



スタッフは、親子青空保育きりんガーデンを気にいってくれた子育てママが2名コーディネーターとして動いてくれています。開設費と、毎月の固定費を補助してもらい、コーディネーター料もいただき、どなたでも来ることができる地域サロン・カフェのような場所(B 型通所事業）と、介護保険ではまかなえない困りごとのお手伝いをする事業(B 型訪問事業)を運営しています。



カフェでは、EM グラビトン農法で採れた野菜を中心に安心安全なランチを提供し、野菜もお分けしています。SNS で活動を知った方、クラウドファンディングの返礼品として送らせてもらって EM 栽培の野菜の味を知ったお客さんから注文も増えて、売り先がない問題も解決しつつあります。

近所の方、包括支援センター、老人クラブの方、小学校などにもお声がけをして、お弁当の注文や誘い合って食事に来てくださる家族、グループも増えてきました。買い物代行、ゴミ出しなどのサービスをすることで、地域の困りごとのお手伝いもできるようになりました。



つまり、赤ちゃんから高齢者までの居場所、食育、EM グラビトン農法の善循環型ユニバーサルビレッジが誕生したのです。

◎親子青空保育園

「自分の食べるものは自分で作れる力を！」という比嘉先生のお言葉に感動し、種まきや収穫、自然体験、料理、失敗経験も安心してできる場所を目指しています。自分で決めたやりたいことをする。自分の決めたものを食べられる量を選んで食べる方針です。

自分の思いを伝えることができるように、言葉もですが絵でも対話できるように来た時と、帰る時の気持ちを大人も子どもも「絵」を描いて思いを伝え合うことを大切にしています。

地球環境を良くする米のとぎ汁発酵液作り、EM 団子作り、竹炭を焼く、EM プリン石鹸、竹炭石鹸作りもしています。EM でコーティングした木材で DIY したベンチや看板も出来ました。

集まる家族は、自然環境に興味がある方、発達障がいや不登校など困りごとをお持ちの方、子育てに悩みのある方、実家が遠い、実家のない方などがほとんどです。

何度も通っているうちに、料理はもちろん、子どもさんの面倒を見あったり、カニ取りに引率したり、力を合わせて行い、私が助けてもらうくらいに育ってくれています。「ほんの 10 分お茶を飲み、大人と話したかった。」「子どもをだっこせずに、両手でご飯を食べかった。」こんなちいさな夢が叶ったと喜んでくれます。





◎EM グラビトン農法

雑草をお宝にする方法を知り、結界を張った畑で野菜を作り始めて 2 年になります。満月の満潮に海水を汲みに行き EM 海水活性液を作り、散布した植物はすくすく育ちます。無煙炭化器で炭を焼き、EM 海水活性液で消して、浸したものを利用し、塩も使っています。



私たちの畑は 2 ヶ所あります。1つ目は「龍右農園」で広さは4畝くらいです。この畑で、自然農を始めて 4 年目、EM と出会い 3 年目になります。EM 海水活性液や結界を張って、土の状態も変わりはじめました。この畑は、水捌けが悪く畝の周りが水溜りになっていましたが、今年は春先から溝を深くして排水口までを整備したことで、今年は、作物が今までで一番順調に育っています。龍右農園は、EM 効果と自然の草や虫や小動物たちの力を借りて、害虫となる虫の被害も少なくなり、綺麗な野菜が育つようになってきました。改めて、地球のエネルギーや自然循環の素晴らしさに感謝しています。





2つ目の畑は、きりんガーデンの畑で広さは2畝ほどです。昨年まで農家に貸していて、10 数年慣行農業をおこなっていて、昨年から EM グラビトン農法を始めた畑です。



ここもやはり土質が粘土状で水捌けが悪く、龍右農園の 1 年目 2 年目と同じような状況ですが、今年は畑に溜まった毒を出したくて暴れているようにも感じています。雨がたくさん降ると作物が根腐れしてしまい枯れてしまいました。溝を掘り水捌けをよくしましたが、こちらはうまくいかなかったのです。

今回、比嘉先生から、EM 海水活性液を水溜りに入れることで腐敗を防ぎ、肥料成分として有効なことを教えていただいたので、やってみたいと考えています。日々の畑作業が全て学びの場となっていて、EM の力を借りながら、自然の循環を学びながら、進んでいる状態です。

◎まとめ

失敗や問題点をチャンスと捉えて、有用微生物群や自然の力を借りて仲間と楽しんでいると、思っても見ない現実を引き寄せることが実感できました。

助成してくださったことで、ユニバーサルビレッジ作りが進み、全国の同じような取り組の皆さんと連携できて、U-net の方々からも元気をいただいています。感謝をしながら、これからも取り組みたいです。 ワークショップも行なっていますので、私たちの居場所に遊びに来てください。

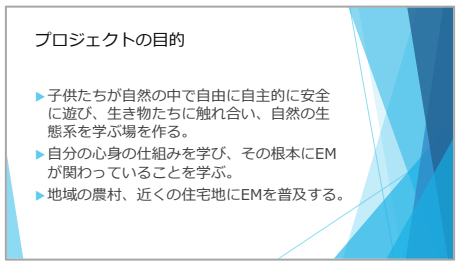


＊のびのび親子お絵描きワークショップ依頼受け付けています。
（「絵を聴く保育」で検索 https://momo-cocreation.com ）
＊クラウドファンディング「親子青空保育園」で検索してぜひ応援お願いします。
https://momo-cocreation.com/aozora-hoiku/

「森の学校つくも」

森の学校つくも EM 担当　萬谷正樹

事の始まりは映画「蘇生Ⅱ」の観賞会でした。自治会長時代に知り合いだった黒柳さんから蘇生Ⅱの観賞会へのお誘いを受けました。すでに2回観た映画ですが、EM のことを知ってもらう良い機会だと参加することにしました。当日の参加者は殆どが初対面の女性ばかりでした。映画が終わった後、リーダーの十場比呂子さんから森の学校の構想の話があり、全面的に EM でやりたい、協力してもらえないかとのお話があったので、喜んで協力させてもらいましょうというのが始まりです。



自分の子供のころと今の子供達の環境が、時代が違うとはいえ、余りにも違いすぎて子供たちが可哀そうで、もっと自然の中で伸び伸びと育ててやるべきではないかと常々考えていたことと一致する森の学校つくもの構想に賛同しました。森の学校建設予定地が自宅から車で10分もあれば行ける近さにあったこともあり、私自身も森の学校づくりに参加させてもらうことにしました。



現地に行ってみると、幹線道路から約100m 入った池のほとりで、雑草ぼうぼうの休耕田らしき土地と、隣接地は人の体が入れないほど竹が密生した竹山でした。山から浸み出してくる水で土地は足元がぬかるんでジュルジュルで、長靴が抜けなくなって尻もちをついてドロドロになったことが2回もありました。この山から浸み出してくる水の処理の為に排水溝を掘り、排水パイプを埋める工事からスタートしました。



雑草だらけの場所は草刈り機で刈っていきましたが、翌週行ってみると、また草だらけの格闘が続きました。竹山はひたすら竹を切り、無煙炭化器で燃やして竹炭を作りました。初めの頃は道具もみんなの家から持ち寄りで重労働の連続でした。重機が入れる道路もなく、ひたすら人力で開拓に約1年を費やしました。毎週10名ほどの作業の繰り返しでした。

この間の唯一の楽しみは、切った竹を割って、組み合わせてスタードームを組み上げたことでした。スタードームのセンターに穴を掘り、炭と塩と EM 活性液を入れてあります。床を張る前に素焼きの EM セラミックと床下用セラミックを入れました。既存の小屋も屋根の修理に始まり、柱の補強、壁板の張り付けなどの工事一切が皆の協力で手作りです。もちろん高齢者が殆どですので、兵庫県の協力で週に1回3名程度の大学生のボランティアの力をお借りすることができました。整備が進んでくると、気が付かなかった梅の古木が20本ほど見つかりました。これらの梅の古木からは梅の実がたくさん採れて希望者に販売しました。

電気も引けました。スタードームも雨の日に中で作業ができるようになりました。電動の工具も使えるようになりました。ただ、水道が引けません。本管が遠くて費用の捻出ができません。山からの水を使っています。調理用は家からポリタンクで運んで使っています。

だんだんと整備されてくると次の楽しみがどんどん湧いてきてコロナなんか関係なしでした。開拓はまだまだ時間を必要とします。体力的にはキツイですが、みんな元気で頑張っています。EM さんのお陰です。

2年目に入り、子供たちを受け入れることが出来るようになりました。最近では家族総出で来られることもあります。子供たちの受け入れは基本的に月曜日と土曜日です。もちろん、保育スタッフがつきます。ピークで子供の数が18名になったこともあり、今のところ好評かなと思っています。お昼は飯盒炊爨が多いです。タケノコご飯や、整備した畑で採れた野菜や椎茸が食材です。もちろん EM 栽培です。子供達も調理に参加します。

遊びは子供たちが勝手に工夫して遊びます。縄跳びや、木登り、ブランコなど自然の中でのびのびと遊びます。秘密基地を作ったり、水のきれいな小川で水遊びをしたり、花や野草を調べたり、学校では教えてもらえない色んな発見があって楽しそうです。子供たちの目が生き生きと輝いているのを見ると本当に良かったなぁと思います。

竹の根っこに躓いて転んでしまい大泣きすることもありますが、保育園年少組から小学6年生まで一緒に仲良く遊びます。上級生は小さい子の面倒を見ています。今の子供たちに欠けているのがこれです。鍵っ子で、同級生ぐらいしか友達がいなくて、スマホゲームばっかりしている子供と森の学校で遊んでいる子供では将来大きくなってからの人生に思い出や経験の違いが出るように思います。自分たちで考え、工夫して、そんな経験は自然と身に付くと思います。

草が伸び放題の隣地の休耕田の持ち主から、休耕田の土地を買い取ってもらえないかと相談があり、リーダーの十場さんが買い取りました。その休耕田をみんなで整備して、3枚の田んぼ(約500坪)で田植えをしました。機械植えではありません。お手植えです。私も70年程ぶりに田植えをしました。懐かしい感覚でした。田植え前に1トンタンクを2基購入して EM 活性液の二次培養をして田んぼに入れました。

畑も整備して貸農園もする予定ですので、EM 活性液はジャブジャブ使えます。蓄圧式の小型噴霧器を買って上げたら子供たちが遊びでシュシュして遊んでくれています。EM って何かも知りませんが、安全って良いですね。













ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトの一つとしてご助成いただけたお陰で、森の学校つくもが順調に進んでいることを関係者一同大変喜んでおります。比嘉先生はじめ U-net の皆様、EM さんありがとうございます。

「講 評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

今回も楽しい発表を聴かせていただきました。発表者の皆さま、ありがとうございました。

皆さんの報告が、1 年目よりは 2 年目と進化しています。これは EM がオリジナル＆クリエイティブという背景のためです。EM は使う方が考えて使うと、オリジナルで人から学ぶではなく独創的となります。自分で新しいチャレンジに取組んで行く、すなわち、クリエイティブです。オリジナルでクリエイティブ、ということは、先ほど仲眞さんの発表講評でもお話ししましたが、ほとんどがシンクロニシティという量子の世界の結びつきで、現実になる前にそう言う準備やつながりがパワーアップしていると、今回の報告の様な現実が現われて来ます。このような量子的な性質を循環させようとすると、基本は“利他”なのです。他人のためにどうするか、自分にとっては当たり前ですが、子どもたちや高齢者のため、社会のためという利他の精神の覚悟があると、EM はすべてをつなぎながら量子もつれを増強して行き、難しい問題を解決できるようになります。

平野さんの報告では、栗原市全域をユニバーサルビレッジにしようと取り組んでいます。報告にあった大きなタンクは、日本橋川浄化で使われていたタンクですが、世界中の方が東京湾の浄化を賞賛していますが、私たちが 6000 トン余りの EM を日本橋から東京湾に流した結果なのです。東京湾浄化の縁の下の力持ちが、今度は平野さんの元で大きな働きをするようになりました。今では、宮城県の水産加工場や畜産、農業等、全場面で連動して EM が使われるようになり、EM の量子重ね効果が現われています。すなわち、量子うなりという、何にでも変わる量子のエネルギーが使えるエネルギーに変換される状態であり、量子コヒーレントという形になっています。そうなると、同類が集まるようになり、EM 活用の効果を説得する訳でもなく EM 活用事例が広まって行くのです。温泉の蛇口バルブの錆が取れたりすることも、実はアメリカの塩類集積地帯で、配管に集積した塩化物が EM を使い始めたらなくなり、配管のメンテナンス費用が極端に減ったという報告もあります。今では砂漠の塩害地帯の機材も、EM を活用し始めたら塩害がなくなるという国際的な事例にもつながっています。他には、ユニバーサルビレッジ栗原を作るための理念図は、平野さんが伊豆沼をきれいにしたという実績があり、EM 活用の裏付けがすべてある訳で、行政側も協力的になりました。これだけの体験と社会貢献認識がしっかりしてくると、従来言われている政治や社会の仕組みを根本から変える見通しが出てきており、この活動が社会化となって行くものと確信しています。

EM 塩害対策

アムリタファームは、技術的にはトマトが日本一になり、いろいろな方法がきちんとできています。お客様やマスコミをはじめ、外部とのつながりも出来てきたことで、ネットワークを通じて良いことばかりがつながることになります。スポーツ経験を持つ齋藤さんは、行動に移す時の決断力が他者と違います。多くの人は、勉強好きの無責任で勉強ばかりして、上手く行かないと他者に責任を追及し、自分がこの問題に取り組んでいるという姿勢ではありません。日本の足踏みしている状況は、公務員が勉強好きな無責任であり、誰かが何か言っても自分が責任を負わないためで、国がおかしくなる原因です。ですが、発表者の皆さんは勉強だけでなく、実践をして自ら知恵を産みだすという体験を積み上げています。アムリタファームでもう一つ取り組んでほしいことは、EM 活性液を 1/100～1/200、EM･X GOLD を 1/000 にして、畑に点滴する方法です。畑に結界を作り、点滴で畑の表面をポタポタと太鼓を叩くように点滴します。先ほど、畑で音楽を聴かすということもありましたが、音はバレー流（素粒子のエネルギー）で、雷の音や人間の声、歌もエネルギーとなって畑に入って行くと言う仕組みです。炭を畑に埋設しながら、点滴と併せて波動力を上げる方法ですが、鎌倉の小泉農園でも取り組まれています。点滴を設置することで、バレー流が反応して、音がエネルギーに変わるのです。このことから、お祈り等もエネルギーに変わるということです。今後、畑を整備して結界を作ると同時に、点滴を設置して完成度を高めてほしいと思います。また、塩を上手に使うことで波動が上がり、すべてのエネルギー

小泉農園

代謝が高まります。メディアがアムリタファームを好意的に取り上げているので、直ぐに北海道が EM 化することが楽しみです。

キリンガーデンでは、以前の報告では家賃問題の心配がありましたが、危機的なところは解決したようで、もう一歩、技術的なところの取組みを考えてみます。まず、トマトの青枯れ病ですが、雨が多いときには、海水 EM 活性液をトマトの根の周りにそのままこぼして行きます。そうすることで、根の周りに EM の微生物バリアーができますので、水に浸かっても根が腐りません。トマトは根が腐らなければ、水耕栽培でも出来る作物です。仲眞さんの報告にもありましたが、キクラゲ栽培で青カビが増殖しないとありましたが、水の中でも濃い EM で根回りの対策を行います。大雨の心配があれば、同様に根回りに EM をこぼしておきます。EM だらけにしておけば、水浸しになっても作物は平気なんです。これまでの経験も積極的に活かして、EM 結界をきちんと作り、雑草が多い場所には塩を多めに撒いて雑草を敷き、その上から海水 EM 活性液をかけると、雑草が枯れて行き、そのまま耕さずに植え付けることも出来ますので、EM を上手く活用し、次々と植え付けて行く方法に取組めば、キリンガーデンはもっと楽しく活動できる方向に展開できるものと期待しています。

萬谷さんの発表、「森の学校つくも」は大変うれしく拝聴していました。何よりも萬谷さんの表情がニコニコして、子どもたちからハッピーな爺さんと見られ最高ですね。萬谷さんは U-net をはじめ、当初からいろいろとご協力いただき、神戸の大震災の頃もそうで色んな経験をしています。この経験を子どもたちをはじめ、大人の再教育も兼ねて後世に遺すユートピアを作り始めています。田んぼもありましたが、EM を徹底してお米を作ると、田んぼの下に光合成細菌が増えてきて、このお米だけあれば他に何も要らないという栄養の高いお米ができます。玄米を炊くとき、3～4 合に EM をキャップ 1 杯入れて炊くと柔らかくなり、美味しくいただけます。このように炊いたお米は免疫ビタミン（LPS：リポポリサッカライド）も高くなりますし、加熱調理に EM を活用すると、すべての料理の免疫ビタミンが高まります。キリンガーデンの報告でもあったように、「病気にならない」ということはすごいことで、自分で生きて行くために自分で食べるものは自分で作れるというのは実際、生きて行く上での基本条件で、子どもの頃からこのような教育を受けていればどこでも生きて行けます。

森の学校つくもの子どもたちやキリンガーデンの取組み、平野さんの活動、すべて利他なのです。相手のため、社会のため、それが循環しながら今度は自分も最高になる。このような仕組みが EM の量子力学的な本質で、比嘉セオリーにも書かれているポイントです。比嘉セオリー右端のエンタングルメント＝お祈りをすると相手に繋がる、今回の発表のような利他を繰り返して行く＝エネルギーが重なってパワーが上がって行く、このような動きが他の方にも影響して繋がって行き、繋がった方も上手く行く。今回発表いただいた方々は量子力学で言うシンクロニシティの究極であり、想いは実現するという話になる。今回の発表の背景を理解しつつ、EM の楽しみ方、EM を社会化して行くことを実践すれば、国は良くなります。そのために当会ではユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトを行っており、EM 研究機構では北中城村とのユニバーサルビレッジプロジェクトを進行しています。今日の発表を聴いてお互いの情報を知り、更にクリエイティブになっていると思いますので、次回の発表が楽しみです。ありがとうございました。

★令和 5 年第 3 回 EM 技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内（会員限定）

7 月 7 日に開催された第 3 回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、お好きな時間にダイジェスト版動画が視聴できます。

【配信期間】 8 月 25 日(金)の朝9時～8 月 28 日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は 8 月 21 日(月)までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局（info@unet.or.jp）へメールにてご連絡をください。
視聴用 URL は 8 月 24 日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

海の日の活動報告と世界 EM 団子の日に向けて

水圏(海・河川・湖沼)の環境浄化・生物多様性回復を目的とした EM を活用した環境活動報告が今年も会員の皆様らから届き始めましたので一部抜粋してご紹介させて頂きます。

★三重県の小川理事からの報告です。7 月 17 日海の日に伊勢湾において EM 団子を使用した湾の浄化イベント「第 15 回伊勢湾浄化大作戦」(主催：U-net、協賛：EM 研究機構、EM 生活、コウナゴを復活させる会)が開催されました。当日、四日市港では約 200 人の参加者があり、皆さん、楽しく EM 団子を投入しました。





また、小川理事より「伊勢湾浄化プロジェクト-コウナゴを復活する会-」について、ご連絡を頂きましたのでご紹介します。

これまで、どうしても伊勢湾浄化を行いたく思っていましたが、やっとそのチャンスが来ました。伊勢湾ではアサリ、ハマグリ、コウナゴ(小女子)等の水産資源がだんだん減ってきており、特に伊勢湾や三河湾の特産物であるコウナゴは全く獲れていません。

2009 年 8 月 8 日にマレーシアのペナン州で 100 万個の EM 団子投げを行うイベントがありました。日本も何かしないといけないという事で 2009 年 9 月に愛知県の三浦さん、竹内さんと一緒に、第 1 回三河湾と伊勢湾の浄化大作戦という企画を立ち上げ、最終的には 120 ほどの団体、3000 人が参加し、5 万個の EM 団子を投入しました。この活動は 2009 年から始まり、2011 年には比嘉先生にもご参加いただき、三重県、愛知県の活動を盛り上げてくださいました。その後ですが、少しずつ参加される団体が減ってきており、このような浄化プロジェクトは継続する事が重要ですので、今回から以下の様に活動方法を進化してみました。

①EM 生活をして家庭から EM を流す、また近くの側溝から河川へ EM を投入して行く。
②団体ではなく、個人、グループ、学校等の活動にも力を入れて行く。
③特に農業(林業を含む)関係者に協力を依頼し、山、田んぼ、畑に EM をたくさん、継続的に使っていただく。
④世界 EM 団子の日(8 月 8 日)に合わせてイベントを実施し、盛り上げて行く。

今年も 4 月から海蔵川、鈴鹿川、安楽川、弁天川、田中川などを含む 30～40 箇所で、山、田んぼ、畑に個人、グループ、学校を主体としてどこでも EM を投入するという活動を続けて下さっています。

今年の 8 月 8 日、世界 EM 団子の日は伊勢湾浄化と白石湖浄化プロジェクトの二か所で EM 団子の投入を予定しております。どうぞ、ご協力よろしくお願いいたします。



※右図の世界 EM 団子の日の伊勢湾と白石湖のイベントについてのお知らせは U-net のホームページ・インフォメーションにも掲載しています。ご関心のある方はご覧ください。

★宮城県の平野理事からの報告です。7 月 17 日海の日、花と野菜作りの集い、UV くりはら、NPO 法人 SPC の全国から参集し、伊豆沼・内沼の浄化活動を行いました。EM 活性液を 2 トンとペットボトル 100 本分を内沼に流し入れました。





★京都の吉彌理事からの報告です。海の日に EM 団子と活性液を琵琶湖へ投入するイベントを今年も近江八幡市安土町で開催しました。約 30 人で浄化活動をした後は、マルシェも開かれ、地元の EM 栽培野菜の販売もあり盛況でした。







★千葉県船橋市の杉浦文吾様から、今年も海の日に一人で近所の木戸川に EM 団子 46 個を投入しました、とのメールを頂きました。今年もありがとうございます。

■会員の皆さまの海の日や世界 EM 団子の日の活動情報を教えてください。

皆さんが海の日や世界 EM 団子の日に合わせて実施された活動について教えてください。
以下の情報をメールに書いて、U-net 事務局に送って頂けると嬉しいです。
①実施者名(団体名、グループ、個人)、②実施日、③実施場所、④参加人数、⑤EM 団子投入量(個)と EM 活性液投入量(L)、⑥もし可能であれば、写真や短い動画(スマホ撮影で OK です)
送って頂いた情報は、草の根のボランティア活動を促進するために、本会 U-net の HP や U-net 通信、EM 技術セミナー等を通して、情報発信・情報共有させて頂きます。

★令和５年第４回 EM 技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和5年第4回 EM 技術セミナーを令和5年9月8日(金) 14 時～16 時に開催します。
セミナーへの参加申込は8月1日(火)から当会のホームページ(http://www.unet.or.jp/)のインフォメーション欄から受付を開始します。お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。**お申込みの締め切りは9月7日(木)です。**

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※ 令和5年第4回 EM 技術セミナーは U-net 会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。

例) 姓 [〇〇の会] 名 [地球太郎]

ウェビナー登録についてご不明な点がありましたら、U-net 事務局にお問合せ下さい。

―――― 事務局からのお知らせ ――――

■6 月に開催された執行委員会では、EM を活用した水圏(海・河川・湖沼)の環境浄化・生物多様性回復活動の普及について話し合われました。U-net では、7 月の海の日(祝日)の投入に都合が良い場合は従来のような活動を続けながら、8 月 8 日の世界 EM 団子の日にも、世界の EM ボランティアと連動して EM 団子や EM 活性液の投入を行うことになりました。

■来年 3 月に開催予定の令和 6 年度 U-net 第 25 回通常総会及び特別セミナーは、オンラインと沖縄県の会場で開催することを検討中です。
新型コロナウイルス感染症が第 5 類感染症に移行されたことで、国内の移動やイベント開催もほぼ制限がなくなりました。また、会員の皆様からは比嘉先生のご講演を直に聴きたい。比嘉先生の青空宮殿を視察したい、会員同士で実際に会って交流したいとの声が事務局に寄せられています。
そこで、現在、来年 3 月 1 日に開催予定の通常総会及び特別セミナーをオンライン参加と、希望する会員の方は沖縄県の会場で参加できる開催方法を検討中です。

■U-net 通信や HP で紹介する各地でのボランティア活動の案内文を募集します。
全国で実施されている EM を活用したボランティア活動を会員さまに知っていただき、会員さまがそれぞれの地域で、興味のあるボランティア活動に積極的に参加していただけるような情報を提供できればと考えています。
定期的な EM ボランティア活動(河川や池の浄化、学校でのプール清掃、環境学習、生ゴミリサイクル、美化活動、社会福祉施設でのボカシ作り等)を行なっている団体やグループの方は、以下の情報を事務局までお知らせ頂けると幸いです。
1. 団体・グループ名(代表者名含む)
2. 活動内容(300字以内)
3. 活動場所と活動日時
4. 連絡先(メールアドレス及び電話番号)
(内容によっては掲載できない可能性がありますので、ご了承ください。)

海外の EM 関連ニュース

★BBC ワールドニュース(6 月 27 日ラテンアメリカ版)にボカシの記事が掲載されました。
ボカシのこと、開発者の比嘉先生のこと、アフリカでボカシを普及しているコロンビアのレストレポ博士のこと等が紹介されています(記事では EM とボカシを混同している箇所もありました)。
https://www.bbc.com/mundo/noticias-65839536


BBC NEWS MUNDO
Noticias América Latina Internacional Hay Festival Economía Ciencia Salud
Centroamérica Cuenta BBC Extra
Qué es el bokashi, el moderno abono orgánico japonés que fue impulsado en el mundo por un colombiano

★クロアチアのコストレナ市営新聞のニュースです(6 月 21 日)。
「よりきれいな海を目指すコストレナの学生たちの EM ボール」
コストレナの学生たちは、環境への意識を高く持ち、コストレナの海をきれいにすることに貢献していることを示しました。」
「コストレナ小学校の生徒たちは、コストレナの春イベントの一環としてエコワークショップで作った EM ボールを海に投げ込みました。EM ボール、つまり有用微生物群は、水環境保全のための活動に於いて、ますます人気が高まっています。」
https://nasakostrena.hr/em-kugle-kostrenskih-ucenika-za-cisce-more/


EM kugle kostrenskih učenika za čišće more
21. lipnja 2023. N. K.